令和6年7月 区長記者会見【テキスト版】

高際区長

皆さまおはようございます。選挙のご取材もお忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。それでは7月の定例記者会見を始めさせていただきます。

最初に事業のご紹介をいたします。一つ目は、今年も昨年度に続き、区民による事業提案制度をスタートしておりますので、そちらのご報告をいたします。

今年度は、テーマを二つに絞って実施をいたしました。去年はとにかく1回目ということもあって、どんなことでもご提案くださいということでやらせていただきましたけれども、今回は災害に強い地域づくりとデジタル化ですね、二つとも区としてスピードアップして進めていきたいと思っている重要な二つをテーマとして出させていただきます、提案をお願いしました。

災害については36件、デジタル化については42件のご提案をいただいております。若い世代からのご提案も複数ございまして、区政に対する参画、若い方々のお声をいただけるということで非常に嬉しく思っているところであります。また、企業団体の皆さまからもご提案をいただいております。

今後ですけれども、来月区民投票を行いまして、上位いくつになるか、そのご投票の状況にもよりますけれども、いくつか選ばせていただきまして、また、それを投票のときにもっとこうしたらいいよってというようなご意見も加えていただくことができますので、そうしたお声も踏まえて、昨年同様、区において事業化に向けて検討をし、令和7年度予算案に盛り込んでまいりたいというふうに思っております。

具体的な提案としては、避難所の運営に関すること、防災訓練、防災イベントもこんなふうにしたらいいんじゃないのってということとかですね、発災時のサイネージの活用とか、備蓄品ですね、また防災教育に関することなどいただいております。

特に備蓄品については、私ども先月、女性の目線でゼロから見直そうということで、女性だけのPTを立ち上げまして、備蓄品とか避難所の運営について様々な検討を進めているところです。そうしたご意見なんかも踏まえた上で、備蓄品・避難所運営・訓練のあり方、もっと実効性あるやり方はないかっていうようなことを、今年は

力を入れて検討してまいりたいと思っております。

またデジタル化も、特に子育て期、いろんなことでデジタル化が進む、オンラインが進むとやっぱりいろんな負担軽減になるよね、ということでご提案をいただいておりますし、もっとやっぱりインバウンドなどを意識すると、観光のPRなどもデジタル化を進めた方がいいんじゃないか、あるいは障害者の皆さまのご負担の軽減という点でもデジタル化進めた方がいいんじゃないか、というようなご提案を42件いただいております。デジタル化もですね、今年は、今オンラインの手続き一つとりましても110件、110種類あるものを300まで広げようということでやっております。

その他の今まで紙だったのが、デジタルになるとご利用いただける区民の皆さまにとっても、また我々役所にとってもいろいろ負担の軽減になるし、便利になるよというようなものを庁内で知恵を絞っているところですので、ぜひこの42件いくつ新規事業ということになるかわかりませんが、42件を大事にですね、ご提案読み取って進められるものをどんどん進めていきたいと思っております。

次はですね、昨年度の区民提案事業、6つ新規事業にいたしましたけれども、それについてもスピード感を持って進めております、という報告であります。

去年の投票の1位は日陰を作ってくれというものでした。ご提案を受けて私もびっくりして会見の場でもお話申し上げましたけど、公園に日陰ってないんだってと改めて見たところ本当になくてですね、特にちっちゃいお子さん遊ばせたいお母さんからご提案もいただき、投票でもたくさんいただきました。今年はですね、区内の公園23ヶ所に日除けを設置して、遊んでいるときにちょっと休んでもらえる場所あるいは砂場の上だとかですね、日よけを設置するということで、所管の方で夏になる前に設置しようということでやっておりました。もう既にだいぶ暑いんですけども、21ヶ所設置済み、2ヶ所も速やかに付けていきたいと思っております。

右側にあるのがですね、イケ・サンパークにですね、大きい星形のテントをつけます。梅雨が明けたところでつけようと思っているんですけど、ちょっともう暑いのがね、雨もあまり降らないのもうちょっと早くつけたらよかったのかもしれませんが、もう少しのところでは星形のテントをつけたいと思っています。

また、イケ・サンパークは多くの皆さまに来ていただいておりますので、これの他にですね、テント椅子テーブルを28組、既に設置をいたしました。また、キッズパーク

のところではミストが出るようにもしております。熱中症対策はもう最優先だと思っております。

そして、雑司ヶ谷公園にですね、シェード。私も行きましたけれども、結構なスペースですけれども、ここに日よけのシートを作りました。雑司が谷公園の丘の上テラスって本当に人気がある場所です。そこに大々的なシートを付けるなどをしております。日陰の少ない池本だんだん公園には、新たな日除け棚を作る予定です。

豊島区この他に、区民提案で子どもたちがたくさん体を動かせるようにというようなご提案も受けて、スポーツの場作りにも力を入れております。7月1日から区内7ヶ所のスポーツ施設、18歳までのお子さんたちの利用料を全て無料にしておりますし、また、グラウンドや体育館への子どもたちへの開放も進めております。

それとあわせて公園もですね、日陰を作って、子どもたちがもうたくさん遊べるようにたくさん体を動かせるようにやってまいりたいなと思っております。

もう一つですね、去年の提案の内容ですけれども、外国人専用の相談窓口を庁舎4階に7月1日にオープンをいたしました。

区民、外国籍の区民が今全体の区民の人口の11.7%を占めております。本当に多くですね、国々の方々がお住まいです。そうした方々も日本人の我々と同じように豊島区で暮らしやすい環境を作っていきたいということで相談窓口を設けました。平日5日間、8時半から午後5時まで22言語で対応をいたします。

外国人の支援をされているような機関・団体との連携もしております。窓口に来て、ここでこういうところにおつなぎしたらいいな、というときはしっかりつなげられるようなネットワークを組んで対応をしてまいります。

また、そうした関係機関団体のご助言も踏まえつつ、できるだけここで必要な情報が取れるように、リーフレットなんかも様々取り揃えているところであります。

初日と2日目、1日2日で14件ご相談をお受けしております。私たちとしては、来ていただいた方で、例えば、いじめのことがあるなんてことがあるっていうときには教育委員会に行ってくださいって言うんじゃなくて、教育委員会の担当者に来てもらってここで対応する、あるいはこちらのスタッフが相談できる教育委員会のところにおつなぎする、お連れするような、ぶちっと相談窓口で途切れないような、そうした

丁寧な対応を心がけていきたいと思っています。

またですね、その14件のご相談の内容も報告を聞きましたけれども、本当に様々であります。ここでの相談内容が、次なる支援の大きな材料になると思っています。たくさんあるご相談については、今年度生活のいろんな困りごとを中心にした動画を作ろうと思っているんですけども、そうした動画に反映していったり、あるいはこういうことが結構わからないんだなっていうことを材料に、新しいチラシなりリーフレットを作ったり、所管の方で特にそうしたところに力を入れて発信をしていくなど、こちらの窓口でお受けしたご相談を次なる支援に生かせるように民間団体なんかとも連携して取り組んでいきたいと思っています。

次は、学校改築について、ご説明をいたします。

第2回の区議会定例会の招集挨拶でも述べておりますので、少し報道されている部分もごさいますけれども、改めて詳細をご説明いたします。

東部地域の学校改築につきまして、二つ方針を決めております。一つが駒込地域の小中学校の改築です。東部地域というのがなかなか学校の仮校舎を立てる場所がなくですね、その改築のプランというのがなかなか立てられずに、どうしようかということに苦慮していた地域であります。

そうした中なんですけれども、この駒込地域について、駒込小学校に近接しました日本郵船株式会社が所有する敷地がありまして、そちらを20年間という期間でお借りすることができました。6月7日に20年間の定期借地の契約を締結しております。

ここをですね、仮校舎を作る場所として活用しまして、この近隣にあります駒込小学校・仰高小学校・駒込中学校の3つを20年間で順次改築を進めていきたいと思っています。

少し敷地がフルセットで作るにはちょっと狭い、あるいはプールを作るのはなかなかできないというようなこともありますので、近くにありますスポーツ施設をプールの授業で活用させていただいたり、また、運動会とかそういうときは、この3校で連携をして、別の学校の校庭を使おうとか、そうした工夫も一部しながら、20年かけてこの3校の改築を進めていくことにいたしました。

もう一つは、朋有小学校と西巣鴨中学校の校舎一体型小中連携校を整備するという
ことでもあります。イケ・サンパークの向こう側にございます朋有小学校なんですけれ
ども、こちらのエリア一体での改築を進めます。こちらはですね、本当に仮校舎の用
地がなくて、本当に計画の方針を作るのに困っていた、悩んでいたエリアでありま
す。

当初はですね、朋有小の隣に総合体育場がありまして、そこに管理棟っていうのが
あるんですけども、そこに小学校の別棟を合築して、対応していこうかというような
案もあったんですけども、そうすると根本的な学校改築というのが進まない、また、
これからいろいろ再開発が進んでいく中で、子どもたちも増えていく等々のことで計
画一旦立ち止まって考え直しまして、今回西巣鴨中学校と校舎一体にした整備を進め
ることにしました。そうすることで、西巣鴨中学校が仮校舎の場所で活用ができま
す。そうするとまたそこでこの近隣にあります改築が進んでいくことになります。

これはですね今回校舎一体型小中連携校というのは、仮校舎の場所ができるという
ことで非常に大きなポイントにもなるんですけど、それだけで決めたということでは
なくて、豊島区今の小中の連携教育というのを進めているところでもあります。そこ
の拠点校にもしたいという狙いもあり、小中連携ということで中学に進学するときに
すごく心配、いわゆる中1ギャップっていうものを解消したり、またその小学校から
中学校への円滑な接続についての取り組みをしたり、また、9年間見通した学習指
導・生活指導をするという観点で小中連携教育を豊島区全域で進めているんですけれ
ども、これが校舎が一体になると、よりそうした小中連携教育の推進が図られると思
っております。

またこのエリア巣鴨小学校があります。巣鴨小学校は一体にはならないんですけれ
どもここの3校が一つのブロックとして一体になっている朋有小とともにですね、近
隣にある巣鴨小学校も西巣鴨中連携校ということで、3校が一緒になって小中連携教
育をより進めていきたいと思っているところでもあります。

小中の校舎一体型の連携校というのは、現在ですね、1ヶ所あります。池袋中学校
と池袋本町小学校が一体になっております。近くにですね、池袋第一小学校がありま
して、同じようにその3校が池袋中学校連携ブロックとしていろんな連携を進めてお
ります。

今回二つ目の連携校ができますので東西に校舎一体型小中連携校が東西一つずつで
きる。そこが東西の拠点となって、それ以外のブロックの後押しをしていくというよ

うなイメージを持っております。

もう一つ申し上げます。今回このプランを進めるにあたって、小学校の場所と総合体育場の場所をチェンジすることにしました。これをチェンジするとイケ・サンパークが防災公園なんですけども、防災公園と通りを挟んで真向かいが総合体育場になります。そうすると、全体で広い空間ができて、広い屋外避難所、いざというときにイケ・サンパークと総合体育場が一体となった屋外避難所として防災機能も向上できると、こういう地域の皆さまからのご提案もありました。クロスしているんじゃなくて一体でより使いやすいということで防災機能の活用ができます。

また、小学校一体校の改築にあたりまして、総合体育場が今あるところに学校を作りますので、今ある学校をそのままにしながら新しい学校ができます。だから子どもたちにとっては引っ越さないで済む。今いる学校にいるまま、お隣の今の総合体育場に学校ができたなら引っ越すっていうことで子どもたちにとっても学校にとっても、引っ越しが1回になる、仮校舎に行かなくて済む、ということで財政的な効果もありますし、子どもたち学校にとっての負担も減るだろうということで、プラスさっき申し上げた防災機能の向上という観点でこのプランにしております。今後10年程度で再整備してまいりたいと思っております。

次に子育て支援について2つ申し上げたいと思います。出産費用の実質無償化というのは私の公約の一つでありましたけれども、ようやくスタートをいたします。

都内の公的な病院における出産費用というのが、中央値で見ますと、54万2,630円ということで、国の一時金をちょっと超えます。なので、この超える分の5万円を区独自に電子クーポンでプレゼントする、ということであります。

今私たち、子育て世帯をしっかりと見守っていかうということでお子さんが4ヶ月から11ヶ月まで、1歳なるまでの間毎月子育ての見守り支援員がお宅を訪問して見守るという見守りをさせていただく事業をしているんですけれども、それとあわせてこちらのご案内をいたします。見守りにもエントリーしていただき、こちらにもエントリーしていただきますと、こちらの5万円相当の電子クーポンは、翌日までにプレゼントができますので、出産後いろんなものが要り用になると思いますので、お使いをいただきたいなと思っております。区内在住で今年の4月1日以降に生まれたお子さんが対象になります。全てウェブサイトでご利用が増えることになっております。ぜひ

ひご利用いただければと思います。ちなみに子育て世帯の見守り訪問事業の子育てエールといいますけれども、今対象者の85%の方が登録をしていただいている、毎月基本的には同じ方がお話を伺ったり、お困りごとの相談を受けたりをしております。

もう一つはですね、1歳のお子さまへのバースデープレゼント、バースデーサポート事業になります。1歳の誕生日を迎えるお子様がいらっしゃるご家庭に、昨年度からスタートしていますけれども、第1子第2子第3子に1万2万3万円のプレゼントを紙の商品券でプレゼントをしておりました。

今年はですね、オンライン、デジタル化だろうというようなことでプレゼントの額も6万円7万円8万円にアップして、ウェブでお使いいただけるようなことで再スタートをしているところであります。こちらが対象者の方、保育園にお子さんを預けてらっしゃる方については、日頃から保育園でいろんなご相談をされているということもありますので、区がご自宅にご案内をお送りします。

また、在宅で子育てされてらっしゃる方については区の子ども家庭支援センターの職員が、お宅を訪問しておめでとうございませうというようなことで、お顔を合わせながらご案内をします。アンケートにお答えいただいて、こちらをプレゼントするというようなものであります。

次の2つはですね、現在開会中の第2回定例会の補正予算で提案しているものの、ワクチン2種類であります。

一つは子どものインフルエンザワクチンの予防接種費用の助成をするというものであります。小児のインフルエンザの予防接種は任意でありますので、今大体1回から2回受けると5,000円から1万円ぐらいかかるものであります。

本区では中学校3年生までで就学援助対象のお子さまを除きまして、今は中学3年全額が自己負担になっておりますけれども、これから生後6ヶ月から中学3年生相当のお子さまを対象としまして、1回あたり2,000円の助成をいたします。

こちら13歳以上の対象をですね、中学校13歳14歳15歳のところについては区独自で補助・助成をしたいというふうに思っております。接種時期は10月から1月ということで、対象の方は9月末をめぐりにご案内・接種券などをお送りいたします。

もう一つはですね、コロナワクチン接種になります。昨年度までは特例臨時接種でしたので、全額公費で自己負担なしで接種いただいておりますけれども今年度からは、自己負担になりました。4月1日以降は予防接種法上の位置づけが変わりまして、主に高齢者の方の重症化を予防しようという観点で、高齢者の方のインフルエンザの予防接種と同じ対象の方には定期接種として接種がされます。対象は65歳以上の方、また60から64歳でも心臓腎臓呼吸器などに障害のある方も対象になってまいります。対象時期ですけれども10月から3月末の秋冬を予定しているところであります。

こちらはですね、1回7,000円程度の自己負担がかかりますけれども、ここに区独自に自己負担の半分程度3,500円を助成させていただきたいと思っております。なお、生活保護の受給をされている方、中国残留邦人の方は全額助成となります。対象の方には9月末頃に予診票などをお送りしたいと思っております。

次は、なやミミちゃんとすいとりくんということでかわいくて大好きなんですけれども、ちょっと40%アップ500%アップはちょっとオーバーじゃないのって言いましたけどね、このかわいい子の目的は子どもたちの相談のハードルをいかに下げることということでやっております。令和5年の2月に児童相談所が開設しましたけれども、それを機に、子どもたちのために何ができるか、声をもっと上げてもらうようにしようよってということで、職員が作ってくれたかわいいキャラクターであります。

実際ですね、左側にあるSOSカード、子ども家庭支援センターにご相談くださいというのをですね、それまで作って使っていたんですけども、もうほとんどですね、電話なんか来ない感じなんです、残念ながら。それをこのなやミミちゃんの相談カードを作り、なやミミフリーダイヤルと案内しました。今までと同じ番号なんですけれども、少しやっぱりハードルが下がったのか、子どもたちからの電話が入るようになりました。

また、前もご案内しましたが、なやミミのですね、アバターも作って、今一時保護所に入っている子などを対象にやっています。遠隔操作で相談員が対応してまして、なやミミちゃんが動いたり、喋ったりします。相手が大人じゃなくて、なやミミちゃんなのでお話しやすいかなということで、今この子たちを使って子どもたちの声

をより上げられる環境づくりに鋭意取り組んでいるところであります。

その子のですね、LINE スタンプを作りまして、120 円で私も買いましたけれども、こちらもぜひ PR をしたいなと思ってまして、お子さんでも、もしかすると買いやすいかなということで、LINE スタンプであれば一番お安い 120 円でこの子のスタンプをまた職員が作りました。LINE スタンプは豊島区初めて第 1 号になりますけども、こちらでご購入いただいたものについては、次でご紹介しますが、としま子ども若者応援基金というものに積み立てて、また次なる子どもたちの支援につなげていきたいと思っています。

その子ども若者応援基金です。応援プロジェクトというのを立ち上げまして、お金の支援、子どもの支援ということでいろいろやっています。

子どもの支援もですね、サンシャインさんはじめ、いろんな体験を子どもたちにさせてもらうような、いろんなご提案をいただいております。

寄付金でなんですけれども令和 5 年度 92 件いただいて 3,200 万円頂戴しまして累計 226 件、7,300 円のご寄付をいただいております。本当にありがとうございます。こちらを活用して今までお 1 人親のご家庭にお米をお配りしたり、いろんな取り組みをしてまいりましたけれども、昨年度始めたのが、児童養護施設から自立する子、里親さんのお宅から自立する子へのご支援、それを昨年度からスタートいたしましたのでご報告をいたします。18 歳で支援が切れて、自立をしていく子たち、就職したり進学したりする子たちに何とか支援をしたいということで始めました。引っ越しの費用だとかアパート借りるときの費用だとか、大学や専門学校入るときの入学金や授業料ということで、やりました。去年はスタートがちょっと遅かったということもありますけれども、支度金として 4 名、奨学金として 1 名、計 5 名の方々に支援をすることができました。今年度はできるだけ早く、今もう担当の児童福祉司などを通じてご案内をしています。

夏休みに受験勉強したりしますのでね、受験を諦めないように早め早めにご案内をしてこうした支援を活用して進学したい子ができるように就職活動も安心してできるようにそうした応援をしていきたいと思っています。

最後は障害児を対象に、日常生活用具給付の所得制限を撤廃いたします。こちら日常生活用具というのがその名のとおり日常生活に必要なもので、例えば喘息の方が使う吸入器とかたんの吸引器とか、それから特殊寝台ベッドだとか、訓練用のベッドだとか、入浴されるとき補助用具だとか、たくさんあるんですけども、そうしたものに対する給付に所得制限がございました。これを7月1日に撤廃をしております。

この前段としてですね、国が補装具というものの支援をしているんですね。これは車椅子とか、座るときに座りやすい椅子だとかそうしたものの補装具について今年の4月1日から所得制限の撤廃をしました。区の方で所管をします日常生活用具についても、それに伴いまして7月1日に撤廃を決めております。併せて中等度の難聴児、手帳にまでは至らない段階の難聴の子どもさん、その子に対する補聴器などの購入費についても所得制限がございましたけれども、こちらも7月1日より撤廃をしました。適用は4月1日に遡りまして、対応をさせていただきたいと思っております。

いろいろ障害児のお子さんいらっしゃるご家庭ではですね、いろんなものが日常的に必要なって、得てして概ね高額なものが多いです。そこを使えるかどうかということややはり日常生活の質が大きく変わって思っております。その部分についてしっかり支援ができるように思っています。

これから3つはイベントのご紹介であります。

一つはですね、さっき申し上げました、今年度特に子どもたちのスポーツを全力応援しているんですけども、東京ヴェルディと連携をいたしまして、今月27日に南長崎スポーツセンターでインクルーシブのサッカーフェスタをやります。障害のある子もいない子も一緒にサッカーをします。パラスポーツ指導員の資格のある東京ヴェルディのコーチの方がいらっしゃいまして、去年もやりまして2回目になりますけど大変好評であります。

インクルーシブ教育というのは私たち力入れておりますので、スポーツを通じて障害があってもなくても元気にみんなで体を動かして欲しいなと思えます。

2つ目はとしまで学ぶ夏の1日、これも定番であります。

令和4年から毎年実施をしまして、今年も自由学園明日館で開催いたします。

たくさんの企業の皆さまに参加をしていただいて、学びの場を提供してもらいます。

ここでいろんな企業・団体が学びの場、場所は明日館で素敵ですので、そこでいろんな体験、防災体験をしてもらったり、デパートのお仕事体験してもらったり、いろんな体験を楽しみながらしていただきますので、ぜひお越しいただければと思います。

最後は東京フラフェスタです。これも定番になりました。今年 22 回目で、7 月 19 日から 21 日まで行います。メインでやりますのは池袋西口公園グローバルリングですけども、その他、サンシャインシティ、中池袋公園、東武百貨店の 4 会場。今年は 160 チーム、2,000 名の方が参加をされます。19 日は前夜祭で高松小学校のですね、放課後子ども教室の子どもたちも多分踊ってくれるんじゃないかと思えますけれども。そして土日がメインのお祭りになります。池袋の名物のイベントになりましたのでぜひ皆さまお楽しみいただければと思います。

私からは以上であります。ありがとうございます。

【質疑応答】

新宿区新聞

小学校の改築の件なんですけども、2 番目の朋有小学校と西巢鴨中学校の校舎一体型整備という、これなんですけども。そもそも朋有小学校の改築が課題になっていたところから起点になっていると思うんですけど、小学校の児童数の増加対応が課題だったということが大きかったんですかね。児童数の増加がどんなふう増加してきているのか。例えば現状のクラスどのぐらいで、今後どのぐらい必要になる見通しなのかっていう辺りで、事業概要に書かれている内容のところに経緯があるんですけども、造幣局南地区や大塚駅南口地区の再開発による児童数増加分というのがあるけど、この辺の開発というのはこれからのことだと思いますんで、さっきのこういった開発を見越して教室が足りなくなっているというか、そういう状況なのかそれとも今既にそうなのか、ちょっとそのあたりのことを伺えればと思います。

学校施設課長

朋有小学校につきましては、ここ5年間でも50人ほど児童数が増えてございます。学級数にいたしますと2クラス分でございます、既に学校の中で用意されている教室っていうのが、いっぱいいっぱいな状態でございます。

それで今後の推計なんですけれども、現在ですね、未就学の年齢別の人口を見ると、やはりこちらのエリアですね、かなり多くなってございますので、今後も増加が見込まれるというところで、最終的にはそういった再開発の部分も見越してさらに増えていくっていうところが想定されるんですけれども、直近でも児童数の増加が続いている状況でございますので、仮設の校舎を整備しつつ、改めてしっかり学校自体も改築して、児童をしっかりと受け入れられる体制を作っていくというところになってございます。

高際区長

はい。もともと一部仮設っていうんですかね、今の建物のある校舎に仮設で作らないと間に合わないというような状況でやっています、プラス総合体育場にある管理棟の方に合築でやろうと思っていたんですけども、お話しのとおり大塚の方の再開発だとか、それから東池袋の開発があったり、よくよくやっぱり検討してみると、それで足りるかという話がありました。

それともう一つはですね、以前より考えていたんですけれども、大人の施設と子どもの施設が管理棟に合築で入るわけなんですけども、そうしたときにその本校舎からの子どもたちの動線も問題ないように検討はしていましたが、年中その子どもたちが本校舎からこっちに移動していくっていうのも、子どもたちの動きとして決して望ましいものではないと思うような判断もありまして、それを学校としてしっかり作っていくという判断になっています。

新宿区新聞

確か去年今ぐらいの時期に、今回の件で説明があったと思うんですけど、私そのときはちょっと来られなかったんですけど、その当時は仮校舎としてっていう話で、それが今回のようなこういった本格的なあれになったという理解でよろしいでしょう

か。

高際区長

そうなんです。今までも前報告した内容で議会にも報告してしましてね。それをやっぱり再開発のことおよびその子どもたちの移動の負担とかいろいろ考えたときに、一旦立ち止まることにしたんですよ。

今年の第一回定例会のときに、ちょっと立ち止まらせてほしいということで、もう1回検討としますということで、そこからいろいろな児童数のことだとか、さっき申し上げた小中の連携教育のことだとか、それからこのエリアの他の学校も含めた改築のことだとか様々な要素でもう一度検討し直して、今回の新たな方針ということで大きく変更に至ったということでもあります。

新宿区新聞

わかりました。西巣鴨中学については完全に朋有小学校の方に移る形で一体的に整備に入って、そこが他の巣鴨小学校なり周辺の仮校舎として活用していくと。

高際区長

東部地域他にも近くに小学校ありますんで、そういうところの仮設の仮校舎として活用ができればいいなと思っております。

新宿区新聞

わかりましたちょっと話が混み合っていたもので、ありがとうございます。

読売新聞

西武池袋本店の改修についてお伺いをしたいと思います。6月10日にそごう・西武から改修のイメージというものがある程度公表されまして、高級ブランドが改修前の

73 から 60 ぐらいになるということが示されました。高級ブランドはある程度残って百貨店としての体裁が残るといった状況だったかと思います。

地元の方は百貨店の雰囲気はなくなって、まちのイメージが変わるんじゃないかというような不安もあったかと思いますが、今回示されたその改修後のイメージについてや、これまでの改修などを巡る一連の動きについて区長の受け止め、評価をお願いいたします。

高次区長

6月10日にそごう・西武さんが、こんなプランで考えておりますというのをご説明に来ていただきました。その時、今おっしゃったような観点のご説明で、スペースは半分になるけれども、百貨店としての魅力を落とさないように、また今後もっとヨドバシさんとの連携も含めて百貨店の魅力を高めていくことで知恵を絞りましたということが、お話にありました。

百貨店というのはいろんなものがあって百貨店なんですけども、特に以前よりそごう・西武さんがおっしゃっていましたが、ラグジュアリーブランドと化粧品ですね、女性にとっては重要な、それとデパ地下、この3つが百貨店として、肝であるところ、そこは質も内容もスペースも含めて落とさないんだと、そこは力を入れていくんですということをおっしゃってました。

それと以前から私地域の皆さまと一緒にいたんですけど、催事場ですね、そこでいろんな文化も含めて、あるいはいろんなおいしいものを企画してくれたり、いろいろ区民の皆さま、また多くの皆さまが楽しめるイベントをやってくださっていたので、催事場は残してほしいというのは地元からも強くお声がありまして、聞きましたところ、当然残しますよということで、そこでいろいろ文化のイベント、それから物産展などなどこれからは頑張りますというようなことでお話もいただいておりますのでよかったですなと思っています。

ヨドバシさんもご一緒にお見えになりまして、ヨドバシさんとしてもしっかり西武池袋本店と連携をしていきますということと、あとは報道にもありましたが、美容専門の高級志向でやりますとおっしゃっていましたが、そのような取り組みを含めしっかり連携して2点で盛り上げていくというご説明を聞いておりますので、私としては多くの皆さまにこれまで以上に喜んでいただけるような取り組みを期待している

ところであります。

朝日新聞

としま出産サポートクーポンと、バースデーサポート事業について伺います。これはいずれも区独自の事業になるのかという点と、どういう事業が都内で行われているか知りうる限りでいいのでご参考までをお願いします。

高際区長

としま出産サポート、出産費用の実質無償化については区独自です。4区でやりますかね、やり方は様々です。

それからバースデーサポート事業は東京都の事業を全面活用させていただいております。区によってですね、どのタイミングでいくらでお配りするかっていうのは様々でございます。こちらは東京都が始めたものを使わせていただいております。

朝日新聞

バースデーサポート事業について、金額が前回より上がっているかと思うんですが、第1子が6万、第2子が7万、第3子以降が8万という感じで、このような金額設定にした理由ってというのはどういう算定根拠があるんでしょうか？

高際区長

東京都自体も規模を拡充してきているっていうところでもありますね。いろんな額の設定もありますけど一番この設定が多いと思います。13区が、6万7万8万ということで、東京都の拡充に合わせてといったところでもあります。

朝日新聞

ありがとうございます。区長の受け止めになると思うんですけど、こうした若い世

代へのサポートに力を入れていく部分について、こういった意気込みと申しますか思いで力を入れるのかその背景についてちょっとお願いします。

高際区長

区もいろんな課題がありますけども、やっぱり国を挙げてもそうですけども、少子化対策っていうのは重要でありますし、子育て支援については私が副区長の時から非常に力を入れてきた一つであります。

やっぱり切れ目のない支援っていうのに豊島区は注力してしまして、さっき申し上げた子育て世帯で見守りもそうですけども、産む前から産んだ時、それから特に大変な1歳になるまでをしっかり寄り添っていくっていうところに、一番重視をしてやっております。

今回はですね、いろんな乳幼児健診、3ヶ月健診、そして4ヶ月から11ヶ月までは見守り、1歳の時はバースデーでお伺いするという中で、出産のところだけが、抜けているというか、やっておりませんでした。あとやっぱりいろいろお金もかかるだろうし、経済的なことで出産をどうしようかなって思う方もいるだろうし、産んでからお金かかるんでね、出産費用が無料になったからって、じゃあ産むっていうことには一概にはなりませんけれど、ここについて国の一時金より東京都はお金がかかるっていうのは、数字として出ていましたので、そこについては何とか区として支援したいところなので、最後のピースっていう感じでしょうか、出産時を初めてやらせていただきます。

朝日新聞

最後なんですけど、切れ目のない支援というご説明があったと思うんですけども、1歳の子どもがいる親、育てる方ももうすごくありがたい、私の娘も今月1歳になるわけなんですけど、すごくありがたいなと思います。

一方で、2歳3歳となっていくにつれて、1歳が過ぎたらお金がかからなくなるわけではなくて、今後も引き続き、もっとともすればお金がかかっていく状況で、区はそういう2歳3歳以降の家庭については、どういう支援をしていきたいなと思っていますか。

高際区長

すごい切実感が、お父さんとしてありますね。本当そうなんですよね、お金のことについてはむしろどんどんかかってくるし、また弟妹が生まれると、さらにどんどんお金がかかるってことで、経済的などころは大きいだろうなと思います。

ただそこについては、やっぱり1自治体でできるところっていうのは、無尽蔵にできるわけでもないんで、しっかり考えていかなきゃいけないと思っています。

見守りをするとか、孤立化させない、孤独にさせないっていう、ある意味アナログの取り組みっていうのは全力でやっていきたいと思っていますし、経済的などころはやっぱり国や東京都の動向もしっかり見て、動いたら私たちもすぐに、区の独自のものを使ってでもやるならやるっていう判断もしていかなきゃいけない場面もあると思います。

それとですね、その観点で言うと、今ですね全庁を挙げて既存の事業の全ての洗い出しと見直しをしております。子育てだけってこともないですけど、いろんな取り組みをやってきていますので、ものすごい数の助成事業があったり、中にはもう今だと使い勝手悪いんじゃないかとか、あと細かすぎて使いにくいんじゃないかとかあると思うんですね。既存事業の廃止も含めてですね、再構築に向けての検討しております。子育て支援も全方位でやっているけど、これとこれ合わせてもうちょっと効率的にやった方が良くないかってのもあるかもしれないので、そうした見直しの中で財源を編み出しながらどこにこれから力入れていくか。おっしゃられました2歳3歳どうすんだっていうことも含めてですね、既存の見直しの中で検討をしっかりしていく必要があるかなと思っています。

日本経済新聞

今お話にあった、全庁的に既存事業の見直しをされているということで、これは定期的にやっているものなのか、今回始めたものかを教えてください。

高際区長

行政なんで行財政改革というかですね、見直すっていうのは当たり前なんですけども、今年度は見直しの担当課長のポストを作りまして、力を入れてやっております。

昨年に私区長になりました、今までやりたいけどできてこなかった部分、例えば障害児支援の拡充とかですね、一つ一つは細かいけれども、やっぱりやった方が良くということなので新規事業をずいぶん出しまして、予算も過去最高額で、区議会で通していただいておりますけれども、昨年度は、もうやりたいやるべきことをとにかくやろうということで、各部からアイデアを出してもらってやってきました。

既存の見直しがですね、追いつかなかったと私は思っているんで、2年目になりました今年度はお金を落とすっていうことだけが目的じゃなくて、区民の皆さまにとってよりわかりやすいように、使いやすい形でのいろんな事業の再構築という意味で今年度集中的にやっています。

日本経済新聞

こんな形でやっているとか、手法とかありますか。

高際区長

担当のラインを置きましたんで、今各部署と戦ってやっていると思うんですけど、私も昨年度からも今年度からも定期的に部長が全員集まる会がありまして、そこでやっぱり見直し再構築の必要性っていうのは直接話をしています。

管理職より実際に補助金や助成金を担当している職員がですね、いろいろ問題意識があるんじゃないかと私は思うんですよね。これ一生懸命やっていたけど、また似たようなのが新しく始まったとか、これも利用者少ないし見直した方が良くないんじゃないかなっていうことが、多分担当職員が一番思うと思うので、管理職だけで判断するのではなく、職員の意見提案なども受けながら、見直していこうということでやっております。

既存事業を変えていくのは、実際に使ってらっしゃる団体や個人の方がいますので、なんでってお声も当然ありますので、そこがしっかり説明できるように、ものによっては2年がかり3年がかりでご説明しながら再構築していくということも必要かなと思っております。そうした思いで、全庁でやっているところです。

日本経済新聞

年内に結論を出すとか、そういうものではないということでしょうか。

高際区長

今年度中には出したいと思っています。もちろんそこはもう少し検討が必要だっというようなことも含めて、来年度こういう話をしよう、それで再来年度にやめていこうとか、そういったことも含めて今年度検討したいと思っています。

東京新聞

小中学校駒込地区の改築のことなんですけども、本区初ということですが民有地を活用しての学校改築というのが都内でどれぐらいあるかということと、駒込地域が長年改築プランが立てられずに苦勞してきた地域ということで、もう少し具体的に、例えば駒込中学校が昭和 33 年築とかってというのが区内で一番古いのかとか、どれぐらいの状況なのかを具体的に教えていただけますでしょうか？

高際区長

詳細は担当の方からご説明いたしますが、民有地を活用したってというのはですね、足立区さんでやったことがあるようなことは聞きましたがそれぐらいかと、珍しいと思います。築年数等々については課長からお答えします。

学校施設課長

駒込小学校につきましてはですね、確かに古いんですけども、一番古いというレベルではございません。あと 20 年ぐらいすると、築 80 年を迎えてしまう学校でございますので、豊島区としては築 80 年というのを目標耐用年数というふうにしておりますので、なるべく早期に改築を進めていきたいと考えておりました。ですが、やはり豊島区では学校改築していく際には、仮校舎をしっかりと設けてそこに一旦移っていただいて改築するという方針でやっておりますので、近傍にそういった区有地がなかつ

たというところで改築の見通しが立たなかったというところでございます。

東京新聞

日本郵船さんとは、どんなやり取りがあって提供していただけることになったのか教えていただけますでしょうか。

高際区長

防災などの観点から、隣に公園があるので公園の関係もあるので、売ってもらえないかなということも含めてご相談をしていたのですが、お貸しするならいいですよっというありがたいお話受けて、そうした時にもうこれは千載一遇のチャンスではないかと、この地区の学校改築を進めるには、ということで、調整をさせていただきまして6月7日に契約に至ったというところであります。

東京新聞

公園を活用するということは考えなかったということでしょうか。

高際区長

まずは定期借地で長期お借りできるということであれば、学校改築に使いたいと判断いたしました。

日刊建設工業新聞社

今の小中学校改築の話で、非常に工夫された取り組みだと思うんですが、改築が必要な小中学校ってまだまだ今後出てくると思うんですけど、今後の改築スキームに関して区長の展望と、何か具体的に新たな改築手法を考えている案件があれば教えてください。

高際区長

学校改築はですね、区民の皆さまもすごい関心が大きいところだと思うんですね。今年度末に基本構想・基本計画というのを1年前倒しで作ることにして、その中でやっぱり学校にかかわらず、区民ひろばだとか、図書館だとかを含めて区有施設をどうしていくんだっていう、そういう整備の考え方についてもあわせて出したいということで、これも全庁的に施設のあり方についての検討を進めております。

そんな中でやっぱり大きいのは学校ということで、本来は基本構想などと一緒に出しますよということで区議会でも説明していたんですけど、この東部地区の二つの方針については、やはり早くお示ししたいということで、今回特出しして二つを今回の区議会で報告しました。

申し上げたように全体の施設整備の考えについては、年度末に基本構想・基本計画と一緒にと思っているんですけど、ここの今回方針をお示しした二つのエリアを含めまして、学校についての改築改修のプランについては年内に出したいと思っています。全体よりも少し先に、特出しで出したいと思っています。

今考えているのはですね、当面のこの10年間にどこどこどこをどういう順番で進めていくのかということと、あとそれから先のプラス10年は、順番まではなかなかですけれども、どこのエリアのどこを進めていきたいのかっていうことをですね、年内に示したいなと思っています。当然お金がないとできませんし、いっぺんにいくつもできませんので、その財政的な中長期的な見通しとセットになりますので、そこも踏まえまして、だけど少しでも早くということで年内を目処に、これから20年間の考えをまとめたいと思っています。

読売新聞

西武池袋本店の件でもう1件お願いいたします。先ほどお話した区民のまちの雰囲気が変わるかもしれないという不安については、今回のプランを踏まえて解消されたと思われるのか、そちらはどうか教えてください。

高際区長

具体的な見栄えはわからないんですけども、この間お持ちいただいたものだとあん

まり変わってない感じが、百貨店のイメージも当然キープされていますし、ヨドバシさんの方もその一連の、何て言うんですかね、半分ずつにはなりますけども一つの館ですので、そこでつながり感といいますか、両方で盛り上げていただけるようなイメージを大事にやっていきますというようなお話でもありましたので、私としては本当に期待をしているところであります。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)